

文化資源の活用について

- (1) 文化審議会文化財分科会企画調査会
中間まとめ概要

- (2) 『歴史文化資源の本質的な説明ができる力を
向上させる取組についてのご案内』

文化審議会文化財分科会企画調査会 中間まとめ概要

検討の背景及び文化財の保存と活用に関する基本的な考え方

- ・我が国においては、文化財保護法により有形・無形の文化財について体系的な施策が講じられ、所有者等の尽力により文化財保護の成果があげられてきた
- ・一方で社会状況は急激に変化し、過疎化・少子高齢化の進行により豊かな伝統や文化が消滅の危機。これまで価値づけが明確でなかった未指定文化財も対象に含めた取組の充実や文化財継承の担い手を確保し社会全体で支える体制づくりが急務



今後、多くの人々が参画し、社会状況の変容に伴い危機に瀕した文化財について、地域の文化や経済の振興の核として未来へ継承する方策を模索することが必要

これからの時代にふさわしい文化財の継承のための方策

1. 総合的な視野に立った地域における文化財の保存・活用

(地域における文化財の総合的な保存・活用に係る基本計画の策定等)

- ・個々の文化財の指定等の現行制度の一層の推進に加え、**地方公共団体が、未指定も含めた域内の文化財を把握し、関係者が協力して総合的にその保存・活用に取組む制度が必要**
- ・国が示す指針等を参考に、**市町村が単一又は他の市町村と共同して、域内の文化財の総合的な保存・活用に係る基本的な計画**（以下、「基本計画」という。）を策定することができることとし、基本計画には、**地域の文化財を総合的に把握したうえで、文化財を核として地域が取り組むべき方向性や文化財の保存・活用のために必要な措置等を記載**
- ・基本計画の策定・変更や計画実施に係る連絡調整のため、市町村は**協議会**（※）を組織。**地方文化財保護審議会**からも意見を聴取
※協議会は当該市町村の関係部局、都道府県、文化財所有者、住民、NPO等の民間団体、商工会、観光関係団体、学識経験者等で構成
- ・市町村は国に基本計画の認定を申請でき、**国が一定の要件を満たす計画を認定**。認定された基本計画に基づき市町村の主体的な取組を促進する仕組み及びその際の国の指導等の必要な措置の在り方を検討
- ・**基本計画の趣旨に沿って、地域の文化財の総合的な保存・活用に資する事業を自立的に推進する法人・事業について、地方公共団体が、一定の要件の下、指定・認定するなど民間の活動の積極的な位置づけを検討**

(基本計画の策定とその推進のための地方公共団体の体制)

- ・基本計画の策定やその推進のためには、文化財担当職員等の人材確保や資質向上により、**地方公共団体の推進体制の充実を図ることが必要**
- ・文化財保護の所管について、**地域の選択で首長部局も文化財保護を担当できるような裁量性の向上についても検討が必要**

ただし、平成25年の文化審議会文化財分科会企画調査会報告で示された、専門的・技術的判断の確保や政治的中立性、継続性・安定性の確保、開発行為との均衡等、学校教育や社会教育との連携等の要請に対応できる仕組みを検討することが必要

2. 個々の文化財の計画的な保存・活用と担い手の拡充

(個々の文化財の保存活用計画の作成)

- ・ 保存・活用の考え方や所有者等が主体的に行うことのできる範囲を明確化して保存・管理の的確性を向上し、必要な諸手続き等をわかりやすくすることなどが必要
- ・ 現在も国指定の重要文化財建造物や史跡名勝天然記念物で作成を推奨している「保存活用計画」を法律上に位置付け、国・地方公共団体による計画作成への関与を制度上明確化するとともに所有者の主体的・計画的な取組促進のための方策を検討
- ・ 計画に定めるべき共通的な事項は、文化財の現状（所在地・所有者・保存状況等）、保存管理上の留意事項や修理・公開活用の方針などが考えられ、今後、文化財の種類、性質等に応じて検討

(所有者とともに文化財の保存・活用を担う主体の位置付け)

- ・ 文化財は日常的な管理の負担が大きく、所有者だけでは十分な管理や公開など活用が難しい場合もあるため、外部の専門的な人材との連携を円滑化する仕組みが必要
- ・ 所有者とともに文化財の保存・活用を担う主体を新たに位置付け、新たな主体が、文化財の維持管理・修理への助言や保存活用計画の提案等をしたり、所有者の意向に基づき自ら管理・修理・公開・活用等を担うことが考えられる。
- ・ 新たな担い手の要件や資質担保の方策、指導監督の在り方等を今後検討

(国宝・重要文化財（美術工芸品）の適切な公開の在り方)

- ・ 国宝・重要文化財（美術工芸品）の公開ルールについてきめ細かな取扱いとするため、材質に応じた公開日数の上限の延長等を検討

(文化財の公開・活用に係るセンター的機能の整備)

- ・ 文化財の積極的な公開・活用に資するよう、活用に当たり必要不可欠な文化財の取扱いや保存修復の知識・技能に関して文化財所有者・管理団体、美術館・博物館等の関係機関等からの相談を一元的に受ける国の窓口・センター的機能の整備を検討

その他推進すべき施策

- ・ 博物館等の役割強化、国際交流や訪日外国人旅行者への対応、文化財の魅力の発信強化や先端技術との連携（復元建物の在り方についての積極的な調査検討、文化財アーカイブや模写模造、高精細レプリカ、VR等に係る効果的な取組の普及等）

中長期的観点から検討すべき課題

現在検討している第一次答申の後、速やかに検討に着手すべき事項

- ・ 文化財を守る技術・技能やそれを担う職人・原材料の確保、修理事業の質の維持向上と人材育成、文化財行政に携わる人材や学芸員等の育成のための施策 等

文化資源の活用について

『歴史文化資源の本質的な説明ができる力を向上させる 取組についてのご案内』

奈良県では、歴史文化資源の魅力的な情報発信のため、人に感動を与えうる文化的背景や国際性などの歴史文化資源の本質的な説明や、子どもにも分かりやすい説明ができる力の向上を目指しています。

特に下記の取組については県・市町村が共に参画することにより「歴史を楽しみ、味わえる奈良」を早期に実現できると考えています。

市町村の皆様の積極的なご参画をどうぞよろしくお願いいたします。

主な取組

○歴史文化資源説明力向上研修の開催

市町村職員等を対象に、地域が大切にしたいと考えている歴史文化資源を、より分かりやすく親しみやすいストーリー性を施して発信していくためのコツを学ぶ研修会の開催。 ※研修の成果は別紙1ご参照

第1回研修会 8/24(木)実施(16市町村・20名の参加)

第2回研修会 10/25(水)開催 ※詳細は別紙2開催通知ご参照

多くの市町村職員の皆様のご参加をお願いいたします。

○奈良県歴史文化資源活用データベース「いかす・なら」の活用

国、県及び市町村の指定を受けている文化財をはじめ、地域が大切にしたいと考えている歴史文化資源を網羅するデータベースを構築し、ホームページ「いかす・なら」で順次公開。 ※HPの概要は別紙3ご参照

「出会う」「楽しむ」「深める」「活かす」の視点で奈良県の歴史文化資源を紹介する歴史満喫サイトとして公開中。

⇒ <http://www3.pref.nara.jp/ikasu-nara/>

28年度は200件の歴史文化資源を登録し、うち100件を公開。

○奈良県文化資源活用補助金による案内板の整備など、市町村等の取組への支援

歴史文化資源の説明力の向上に資する環境整備や解説案内板の整備など、市町村等が実施する事業への支援。

29年度13件採択 (負担区分: 県1/2、実施主体1/2)

「読み手の心をつかむ歴史文化資源の説明について」

※8/24に実施した標記研修の講義及びワークショップを踏まえ、歴史文化資源を分かりやすく共感と呼ぶ説明にするための留意点を集約しました。

NPO法人文化創造アルカ 倉橋 みどり氏講義資料を一部改変

1 どんな「案内板」に人は興味をもつか？

- ① 読みやすい環境
- × 消えかかっている × 汚れている
 - × 草むら、枝などで邪魔されて、見にくい
 - 目線の動きを考え、見やすく
 - デザイン、フォーマットの統一
 - シンプルかつコンパクトに
- ② 文章がわかりやすい
- 一文が短く、主語がわかりやすい
 - 西暦と元号が併記してある(何時代ごろ とある)
 - 人名、地名など難しい漢字にフリガナがふってある
 - 専門用語を使い過ぎていない

⇒ 一度読んだだけで、わかった気持ちになれる！

- ③ ビジュアルが効果的に使っている
- 歴史的な人物の肖像
 - 復元図 など

④ 「今・この場所」との関係がわかる

「いまから 1000 年以上前」、
境内図や復元予想図などで「いまの場所」が示してある

⇒ 歴史に苦手意識がある人の心もつかめる！

2 どうすれば「読み手の心をつかむ文章」が書けるか？

① メーンの読み手をイメージする

歴史ファン、ハイキングを楽しむ人、眺望を見たい人、花や鳥、魚などに興味がある人…など

② できるだけ多くの情報を収集する

歴史は複数の説があり、確定しないことも多い
ソースを明確にし、可能なら明記する
(社寺伝、地域の伝説、研究者の説など)

③ 伝えたいポイントをしぼる

だらだら書かない！

④ できあがった文章は自分以外の人目を通す

年齢や立場が違うほどよい

⑤ 可能なら、書き手を明示する

〇〇市〇〇課 など

3 自覚と責任をもつ

案内板は、歴史文化資源への「入り口」

⇒魅力的でなければ、興味を持ってもらえない

案内板は、それを読んだ人の人生を変えるかもしれない！

歴史文化資源の案内板は、作りっぱなしにしない！

⇒5年なり、10年ごとに見直し、リニューアルを

各市町村観光・文化財担当課 御中

奈良県地域振興部文化資源活用課

平成29年度歴史文化資源説明力向上研修会の開催について（通知）

平素は本県地域振興行政にご協力を賜りありがとうございます。

さて、県では、今年度、地域が大切にしたいと考える歴史文化資源の説明文をより分かりやすく親しみやすいストーリー性を施したものとし、情報発信していくためのコツを学ぶ研修会を別添実施要領のとおり実施いたします。

具体的な事例を踏まえて学べる内容となっておりますので、是非ご参加ください。

1回目の講義は平成29年8月24日に実施いたしましたが、当日ご参加いただけなかった方もご参加は可能ですので、奮ってご参加ください。

つきましては、参加者について、10月11日（水）までに、ご報告をお願いします。

記

1 日時・概要

平成29年10月25日（水） 13時30分～16時00分

ワークショップ

- ・歴史文化資源を情報発信するコツについて学びます。
- ・受講にあたっては、奈良県歴史文化資源データベース「いかすなら」に登載されている貴市町村の文化財、建造物、美術工芸品、遺跡等の歴史文化資源を紹介するためのシート（別添：歴史文化資源データベース登載シート）を用いて、歴史文化資源の説明文をより分かりやすく親しみやすいストーリー性を施したものに実践的な研修を行います。歴史文化資源のライターとして経験豊かな講師によるアドバイスも受けられます。
- ・受講にあたっては、上記データベースへの登載を希望する貴市町村の文化財、建造物、美術工芸品、遺跡等を1点選んでいただき、シートを作成のうえ、平成29年10月11日（水）までにメールで下記連絡先までご提出ください。
- ・1回目の講義及びワークショップで、ご参加者の皆さんに歴史文化資源の説明文をより分かりやすく親しみやすいものとするための留意点をご議論いただいた内容を参考資料としてまとめましたので、シート作成の参考にしてください。

なお、シート及び1回目の研修資料につきましては、以下のホームページでご覧いただけますのでご利用ください。

<http://www.pref.nara.jp/item/182783.htm#moduleid73461>

また、歴史文化資源データベース「いかす・なら」ホームページは以下をご覧ください。

<http://www3.pref.nara.jp/ikasu-nara/>

2 場所

奈良県立橿原考古学研究所 講堂
橿原市畝傍町1

3 詳細 別添実施要領のとおり

〒630-8501 奈良市登大路町30
地域振興部文化資源活用課文化資源活用係
山本・大木
TEL0742-27-2054 FAX0742-27-0213
E-mail yamamoto-shuheii@office.pref.nara.lg.jp

平成29年度歴史文化資源説明力向上研修 実施要領

1. 目的

県全体での歴史文化資源の説明力向上を図るための取り組みとして、市町村をはじめとする各関係機関と事例の相互共有や意見交換、よりよい説明の検討等を行い、全県レベルでの歴史文化資源の説明力向上をめざす。

目標：①歴史文化資源に関する適切でわかりやすい説明について学ぶ。

②その歴史文化資源が、地域で大切にされている存在であることがわかるような、「思い」のこもった文章について学ぶ。

2. 対象

・各市町村歴史文化資源活用関係業務担当者 40名（1回あたり）

3. 開催時期・場所

○平成29年10月25日（水）・橿原考古学研究所 講堂

4. 研修内容

・人に共感や感動を与えうる説明をするために、その歴史文化資源が、地域で大切にされている存在であることがわかるような、「思い」のこもった文章を作成する。

5. 日程

13:30～16:00

ワークショップ：「歴史文化資源の説明力向上の実践について」

【講師】特定非営利活動法人文化創造アルカ 理事長 倉橋 みどり氏

- ・各市町村が作成した歴史文化資源データベースの説明文案についての、ブラッシュアップのためのグループワークを行う。
- ・班毎に発表
- ・講師による講評

奈良県の歴史文化資源を1つのデータベースに集約！

奈良県歴史文化資源データベース

いかす・なら

歴史を活かす。未来を生きる。

ウェブで検索♪

いかす なら

検索

奈良県歴史文化資源データベース「いかす・なら」は、「出会う」「楽しむ」「深める」「活かす」の視点で奈良県の歴史文化資源をご紹介する歴史満喫サイトです。

あなたと歴史がつながる、奈良県の歴史文化の世界へご案内します！

奈良の歴史を多様な視点で満喫

出会う

地域で大切にしたい「歴史文化資源データベース」、「奈良県の世界遺産」、「奈良県の伝統行事」などをご紹介します。

深める

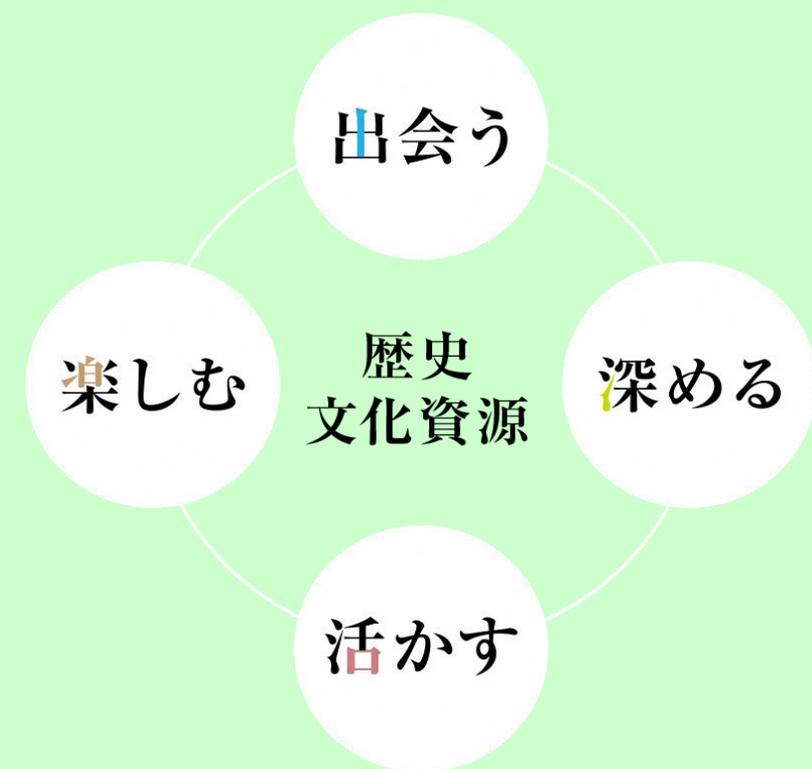
偉人たちの知られざるエピソード「奈良偉人伝」、江戸時代の観光アプリ！？「歴史文献で訪ねる奈良」、もっと知りたい！「深掘り！歴史文化資源」などをご紹介します。

活かす

「歴史を活かす地域の取組」、「記紀・万葉プロジェクト」、「聖徳太子プロジェクト」などをご紹介します。

楽しむ

奈良の歴史に関連する建物や人物等をクラフトペーパーに！「ならフトペーパー」、「聖徳太子ものがたりマップ」をご紹介します。



歴史文化資源とは？

ここでいう歴史文化資源は、「文化財」に限らず、『古事記』『日本書紀』『万葉集』をはじめとする文献史料、歴史上の人物及びそれらに基づく伝承や旧跡等も含んでいます。過去の人達の営み全てを「歴史」と捉え、それらにまつわる幅広い歴史文化資源を紹介しています。

